



## 企業と農村の協働による 山梨県のワインファームで社員と家族が農業体験

富士通グループは、山梨県が農村地域の活性化を目的として推進する「やまなし企業の農園づくり」制度を利用し、甲州市のブドウ農園に「富士通GP2020ワインファーム」を開設しました。2010年3月より、地域社会や生物多様性保全への貢献と環境教育を目的に、社員らの農業体験の場として活用しています。

### 山梨県と協働の 「富士通GP2020ワインファーム」

「富士通GP2020ワインファーム」は、山梨県甲州市のブドウ農家「有限会社夢郷葡萄研究所」との協働協定により誕生しました。名称の「GP2020」とは、地球環境問題の解決へ向けて富士通グループが果たすべき役割を示した中期環境ビジョン「Green Policy 2020」のこと。農地の維持に協力することは地域社会に貢献し、里山の生物多様性保全にもつながると考え、環境社会貢献活動の一環として活動を実施しています。

初回の活動は、ブドウ栽培についての講義の後、剪定枝の片付けやごみ拾い等の畑の保全作業、上に伸びた枝を支線に固定する誘引作業を行いました。支線に残っているツルや固定用のヒモをきれいに取り除くことで害虫等を予防し、農薬の使用を抑えることで環境負荷の削減にもつながります。



畑の保全や枝の誘引作業を実施

### 農業体験活動で環境意識を育む

年3回の公式活動では、6月にブドウの病気などを防止する傘紙取り付け、秋にはブドウの収穫を行い、ブドウの成長過程に応じた農作業を体験できます。また、収穫したブドウを醸造してオリジナルワイン300本を製造する予定です。

これらの活動の目的は、参加者が農業体験を楽しみながら、自然の恩恵を受けて成り立つ農業のことや、農地の適切な管理がもたらす生物多様性保全への貢献について理解していくところにあります。今後も「Green Policy 2020」の実現に一層の努力を続け、地域社会や生物多様性の保全に貢献してまいります。

#### 参加者の声

- 事前の講義によって有意義な作業を行うことができ、ブドウの樹に触れる楽しさも味わえた。
- 農業は植えて終わりではない。地道なメンテナンスの必要性を作業から身をもって理解できた。
- 環境に配慮したブドウ栽培の方法と、参加者それぞれが率先して作業に取り組む姿勢に感動した。



社員と家族が農業体験

未来が変わる。日本が変える。  
25

富士通グループはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

**FUJITSU JOURNAL**  
富士通ジャーナル

発行 富士通株式会社  
マーケティング本部 eマーケティングセンター  
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2  
(夕留シティセンター)  
印刷 富士通アプリコ株式会社

本誌ならびに本誌掲載の製品・サービスに関するお問い合わせ先  
富士通コンタクトライン TEL 0120-933-200  
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)  
URL <http://jp.fujitsu.com/about/journal/contact/>



※本誌記事中のプログラム名、CPU名、システム名等は各メーカーの商標、または登録商標です。  
※本誌に掲載されている内容については、取材時点によるものです。  
※本誌は、森林認証紙を使用しています。また、印刷インキは大豆インキを使用しています。

©富士通株式会社2010 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。  
Copyright ©2010 by FUJITSU LIMITED